



JR福知山線脱線事故から20年。責任追及から原因究明の時代へ



死者107名、負傷者562名を出したJR福知山線脱線事故から、今日で20年が経過します。公共交通事業者である私たちの記憶にも、この事故は強く記憶に刻まれています。

ジェイアールバス関東会社では、IT遠隔地点呼が全職場に波及し、今年度からはさらに深度化が図られ、運行管理体制も大きく変わろうとしています。高速線についても運行管理が集約され、一般線に関してもエリアごとに集約される見込みです。

更にはDXの推進が図られ、AIやロボット等による自動点呼システムなどの導入で、今後、主管支店以外では運行管理者の配置が無くなるような構想が経営計画の中でも挙がっています。

そして安全対策の要、事故の再発防止の取り組みとして、従前から労働組合の提起してきた「4M4E分析」が導入され、多方面から事故の原因を掘り下げて分析する、原因究明型の事故対策が始まり、私たちも労使で安全を議論する場を求めていく考えです。

皆さんの些細な疑問や不安の声「安全」を見つめ直すきっかけにも繋がります。

これからも「安全・安定輸送」を継続・実践していく為にも、職場の仲間と共に「安全問題」を議論して「安心・安全なジェイアールバス関東」を創っていきましょう！

責任追及だけでは安全風土は醸成できない。

事故の背後要因を掘り下げ、真の安全を追求しよう！